レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）　様式３

ﾚﾋﾞｭｰ項目（事業名）	地方空港のネットワーク化推進（ローカルエアーで結ぶ地方観光のネットワーク化事業）			部（局）	産業労働部観光局
				所管課	観光振興課
				担当班	誘客促進班
				連絡先	078-362-3696
開始年度	令和３年度	終了年度	令和６年度	関連計画等	－
事業区分	□ 国補助事業　☑ 県単独事業				
実施方法	□ 直執行　□ 委託　☑ 補助　□ その他（　　）			実施主体等	(公社)ひょうご観光本部等
事業目的	ポストコロナを見据えた安心安全な国内旅行の需要に対応し、空港航路を活用した“ローカルtoローカル”（地方から地方へ）の取組みを推進するため、航空会社や就航地DMOとの連携により、“相互送客”に向けたネットワークを構築し、国内観光市場の活性化を目指す。				
事業概要	（１）就航地ＤＭＯ等観光関係団体と連携した相互誘客の促進 ①双方のHP・SNSでの相互連携のPR ②観光アンバサダーを活用した情報発信・SNS等のプロモーション （２）航空会社と連携した情報発信 （３）就航地連携観光サミットの開催				
業務フロー	補助金交付申請（実施主体）→受付・審査（県）→補助金交付決定（県）→事業実施・補助金実績報告（実施主体）→受付・審査（県）→補助金交付（県）				
R5レビュー時の外部委員会意見	・就航地と連携した後に何をするかが重要である。アンバサダーも活用した連携就航先での集客イベントを実施し、その開催数をアウトプットとすべき。 ・集客イベント等は、「ひょうごフィールドパビリオン」とも連携した展開を図るべき。 ・トップアンバサダー作ってもらったモデルツアーのコンテストを実施してはどうか。 ・事業目的からすると、アウトカム指標の神戸空港旅客者数からは、羽田空港の旅客者を除くべき。 ・就航地連携観光サミットの参加者数をアウトカム指標とすべき。サミットの動画配信に対するアクセス数も伸ばすよう努力されたい。				
改善結果（改善状況取組過程）	・現行のアウトカム指標の神戸空港旅客者数から、羽田空港の旅客者数を除外するとともに、新たに就航地連携観光サミットの参加者数を設定した。 ・R6年度は、連携就航先の茨城県と長野県においてイベント出展し、県の観光PRやSNSフォロー促進を実施した。 ・一定の事業効果が見込まれたことから、事業としての一定の役割を終えたものと整理し、R6年度をもって終了。				

事業に要するコスト

区分		５年度決算額	６年度決算額	７年度当初予算額	８年度当初予算額
事業費①		5,400 千円	5,400 千円	0 千円	0 千円
経費内訳	報酬・賃金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	委託料	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	補助金・交付金	5,400 千円	5,400 千円	0 千円	0 千円
	貸付金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	その他	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
（財源内訳）	(国庫)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
	(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
	(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
	(一般財源)	(0千円)	(5,400千円)	(0千円)	(0千円)
予算額② ※精算補正前の予算を記載		5,400 千円	5,400 千円	0 千円	0 千円
執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%
人件費③（a＋b＋c）		従事人員 0.2人	従事人員 0.2人	従事人員 0.0人	従事人員 0.0人
		1,644 千円	1,644 千円	0 千円	0 千円
	職員給与費 a	1,420 千円	1,420 千円	0 千円	0 千円
	賞与引当金繰入額 b	114 千円	114 千円	0 千円	0 千円
	退職手当引当金繰入額 c	110 千円	110 千円	0 千円	0 千円
総コスト(①＋③)		7,044 千円	7,044 千円	0 千円	0 千円

レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）　様式３

	指標名	区　分	５年度実績	６年度実績	７年度実績	８年度目標	最終目標【年度】
評価指標	成果指標(アウトカム指標①) 神戸空港旅客者数（単位：千人） ※羽田空港を除く	目　標	2,200	2,200	－	－	2,200
		実績（見込）	2,495	2,614	－	－	【R7年度】
		(単位当たりコスト)	－	－	－	－	
		達成率（見込）	113.4%	118.8%	－	－	
	成果指標(アウトカム指標②) 国内就航地との連携数	目　標	6	7	－	－	8
		実績（見込）	6	6	－	－	【R7年度】
		(単位当たりコスト)	－		－	－	
		達成率（見込）	100.0%		－	－	
	成果指標(アウトカム指標③) サミット参加者数（単位：人）	目　標	100	100	－	－	100
		実績（見込）	67	－	－	－	【R7年度】
		(単位当たりコスト)	－	－	－	－	
		達成率（見込）	－	－	－	－	
	活動指標(アウトプット指標①) アンバサダー登録数(単位:人)	目　標	10,000	10,000	－	－	10,000
		実績（見込）	10,732	－	－	－	【R7年度】
		(単位当たりコスト)	－	－	－	－	
		達成率（見込）	－	－	－	－	
	活動指標(アウトプット指標②)	目　標					
		実績（見込）					【年度】
		(単位当たりコスト)	－－	－－	－－	－－	
		達成率（見込）	－－	－－	－－	－－	
	活動指標(アウトプット指標③)	目　標					
		実績（見込）					【年度】
		(単位当たりコスト)	－－	－－	－－	－－	
		達成率（見込）	－－	－－	－－	－－	
終期設定		有（令和６年度に事業廃止） ・ 無					
改善基準		―					

自己評価	評価の視点	評価	目標に対する達成状況（総合的評価）
	○有効性（評価指標に対する実績） ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか　など	(1)アンバサダーの獲得 10,000人を超える本事業への関心度が高いアンバサダーを獲得した。 (2)サミットへの参加者 就航地連携観光サミットには観光協会や航空関係者から多数の来訪があり、参加者アンケートにおいても好評を得た。	B：ほぼ満足のいく実施状況 ①アンバサダーによるSNS等での情報発信により、安全・安心な国内旅行への需要に応える情報発信・プロモーションを展開した。 ②幅広い連携先を獲得することで、神戸新聞等のメディアにより本事業が掲載され、多くの人に本事業が広報され、相互誘客に向けた情報発信につながった。 ③就航地連携観光サミットについて、多数の航空関係者が登壇したほか、見逃し配信などにより、幅広い情報発信を行った。 ④R6年度においては、就航先での現地プロモーション、就航先旅行業者への商談、航空会社とのコラボキャンペーンを実施し、利用促進を図る情報発信を行った。
	○効率性（最小のコストで最大の効果） ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか　など	(1)事業実施にあたり、連携県および航空会社等と連携し、各々の情報媒体を効果的に活用することにより、幅広い情報発信に取り組んだ。 (2)事業実施にあたり、制作物等を新たに制作するのではなく、既存の物を組み合わせることによって、コストの削減及び低コストでの情報発信を実施した。	

課題・今後の方向性

□ 改善　□ 他事業と統合　☑ その他

説明：R6年度で事業廃止

外部委員会意見

・本事業は、航空会社や就航地DMOとの連携による観光ネットワークの構築や、観光アンバサダーを活用した情報発信等を通じて、地方間交流の促進に一定の成果を上げた。また、R5年度レビューでの指摘を踏まえ、評価指標の見直しや現地プロモーションの実施に取り組んだ点は評価できる。
・一方で、事業目的である「相互送客」の効果については、実際の誘客実績を直接把握する指標が十分ではなく、事業効果の定量的な検証には課題が残った。
・しかしながら、地方空港間の連携体制や情報発信の基盤を構築するという当初の目的は概ね達成しており、一定の事業効果が見込まれたことから、R6年度をもって事業を終了した判断は妥当である。今後は、本事業で培ったネットワークやノウハウを他の観光振興施策に効果的に活用していくことが期待される。
・サミット参加者数の実績が目標値を下回ったことについては、その原因を精査し、今後の施策展開につなげる必要がある。